

# さらめき

No. 67



R4. 10. 12・14 浜分小学校

## 学習の成果がたくさん！学習発表会

人と、未来と、ほくと。

今年度の学習発表会は、3学年ずつ2日間に分けて実施しました。どの学年も工夫を凝らした発表で、子どもたちの頑張る姿をたくさんの保護者の皆さまにご覧いただきました。



# 令和4年度 北斗市立小・中学校 全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

この調査は、文部科学省が全国の児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しています。しかし、調査は実施教科が小学校・中学校ともに限られた教科のみで、学習指導要領の内容全てを網羅するものではありません。ですから、結果は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部分であることや学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要があります。この結果のみで、学校や児童生徒を評価できるものではありません。

また、北斗市教育委員会では、例年同様、市全体及び中規模・大規模の小中学校の調査結果のみ公表いたします。今後も、北斗市の学校は、保護者、地域と一体となって学力向上や学習環境の整備に取り組んでまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

北斗市教育委員会

## 調査の概要

### ○ 調査実施日

令和4年4月19日（火）

### ○ 調査の対象

・小学校第6学年の児童  
・中学校第3学年の生徒

### 2 教科に関する調査

・小学校：国語・算数・理科  
・中学校：国語・数学・理科

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにしていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活のさまざまな場面に活用する力や、さまざまな課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

### 3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

①児童生徒に対する調査

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

②学校に対する調査  
・学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## 小学校

### 1 教科に関する調査

○国語・算数で全国の平均正答率を下回りましたが、昨年より差が縮まっています。

○国語では、「言葉の特徴や使い方」で全国平均を上回りましたが、「我が国の言語文化」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で、全国平均を下回りました。

○算数では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の全てで、全国平均を下回りました。

北斗市内小学校各教科の平均正答率 (%)

6年生 355人

	国語	算数	理科	合計
北斗市	64	62	64	190
北海道	64	61	63	188
全国	65.6	63.2	63.3	192.1
道との差	0	+1	+1	+2
全国との差	-1.6	-1.2	+0.7	-2.1

※北斗市・北海道の各教科の平均正答率は国が公表した整数値です。

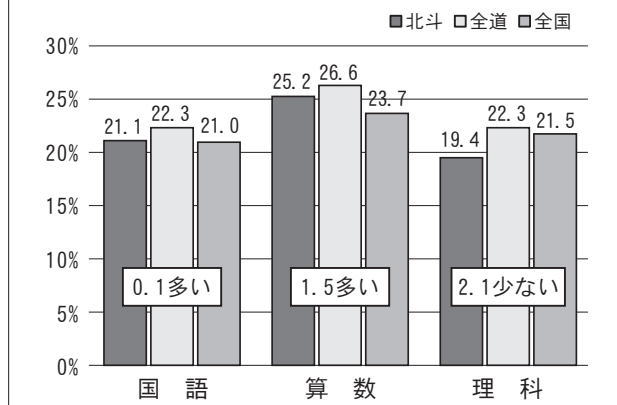
○理科では、「エネルギー」領域が全国平均と同じで、「粒子」「生命」「地球」の領域で、全国平均を上回りました。

○北斗市では、必要最低限の学力を全ての子どもたちに身に付けさせるため、「正答数の少ない層」の底上げを重点とし、その結果として、各教科の平均

正答率が全国以上になることを目指しています。「正答数の少ない層」の割合は、少ないほど望ましいこととなります。

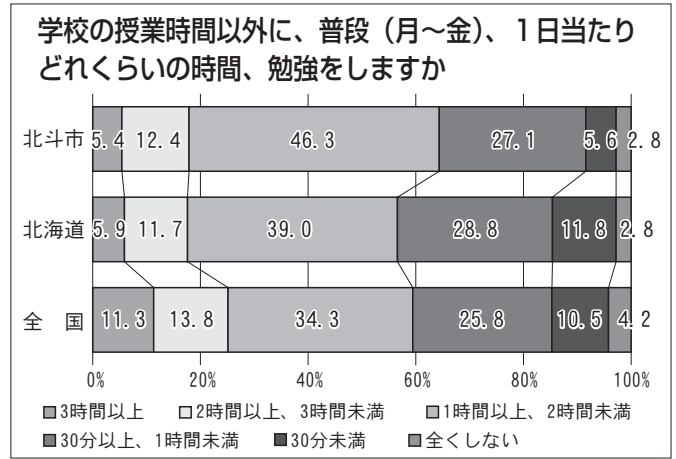
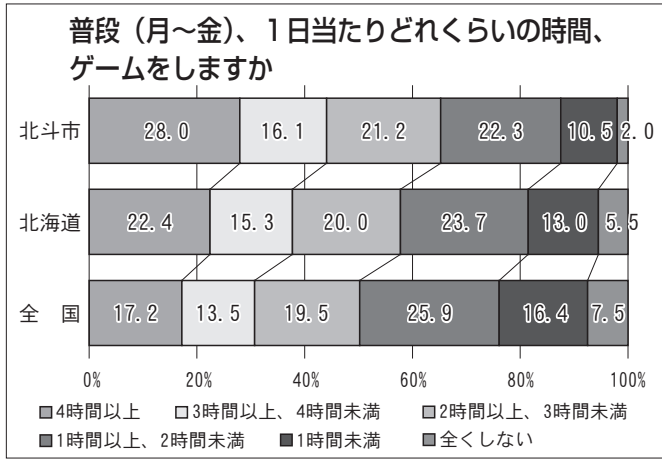
今年度、小学校では、国語で0・1割、算数で1・5割、全国より多くなり、理科で2・1割、全国より少なくなりました。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



### 2 児童への質問紙調査

○平日、1時間以上ゲームをしている児童の割合は、全国を11・5割上回りました。しかし、学校の授業以外に1日当たり1時間以上勉強している児童の割合は全国を4・7割上回りました。ゲーム時間は昨年と同様に長い傾向にあります。家庭学習の時間は大幅に改善が見られ（昨年は全国平均を7・2割下回る）、日常生活時間の使い



方々に改善がみられます。

○「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に、「当てはまる」と回答した割合は、全国・北海道を下回っていますが、昨年（27.8%）より、向上しています。

○「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に、「持っている」と回答した割合は全国・全道を上回りました。（昨年は両方とも下回りました。）

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に、北斗市の小学生は、毎年、全国・北海道を上回る割合で、「いけないことだ」と答えています。

### 主な質問における回答

以下の質問に「当てはまる」と回答した割合(%)	北海道	北海道	全国
自分にはよいところがあると思いますか	31.9	35.8	39.4
将来の夢や目標を持っていますか	61.0	59.2	60.4
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	88.7	86.9	83.9
学校に行くのは楽しいと思いますか	38.1	48.0	51.7

- ① わかりやすい授業のために
- ◆ ICT機器を効果的に活用した授業づくりの取組
- ◆ 日常生活と学習を結び付けながら解決していくような学習の取組
- ◆ 音読の時間の設定

### 【課題解決・改善の取組】

#### 小学校4校（A～D）の平均正答率（%）

	国語	算数	理科	合計
A	61	58	61	180
B	66	68	66	200
C	63	56	56	175
D	66	65	68	199

※各校の正答率は国が公表した整数値です。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に、「当てはまる」と回答した割合は、全国・北海道を下回っています。しかし、昨年（32.0%）より、かなり改善がみられます。

**3 学力向上の取組**

○「1 教科に関する調査」「2 児童への質問紙調査」の結果からわかるように、今回の調査では多くの課題が明らかになりました。市内各小学校では、結果を分析し、実態に合わせた改善に取り組んでいます。

- 1 教科に関する調査**
- 昨年は国語・数学の2教科実施で、両方全国平均を上回りましたが、今年
- 中学校**
- ◆ 教科担任制や少人数指導などにより、授業の質の向上の取組
  - ◆ めあての提示や学習過程（授業の流れ）の統一により、学習の見通しをもてるような授業の取組
  - ◆ 考えを表現したり、対話的な場面を組み込んだりする授業の展開
  - ② 児童の学習意欲向上のために
  - ◆ 全校での短作文の取組と継続的に校内掲示の実施
  - ◆ 朝読書、図書室の環境整備、読み聞かせなどによる読書環境の整備・充実
  - ◆ 体験的な活動の設定
  - ◆ 基礎的な学力を底上げするための朝学習やサポート学習の実施
  - ◆ デジタル教科書、AIドリル、ネットドリルの活用
  - ③ その他の取組
  - ◆ 日記や条件付き作文の取組
  - ◆ 全国学力・学習状況調査問題の解き直しやほっかいどうチャレンジテストの取組
  - ◆ オンライン「Zoom」による学びの保障
  - ◆ 「確認シート」等による家庭学習の充実
  - ◆ 全教員で調査問題を解き、気付いた点や授業に盛り込むべき観点を話し合い、授業計画に生かす取組

は国語のみに留まりました。

○国語では、「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「話すこと・聞くこと」「書くこと」で、全国平均を上回りましたが、「我が国の言語文化」「読むこと」で、全国平均を下回りました。

○数学では、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の全てで、全国平均を下回りました。

○理科では、「エネルギー」領域で、全国平均を上回りましたが、「粒子」「生命」「地球」の領域で、全国平均を下回りました。

### 北斗市内中学校各教科の平均正答率 (%)

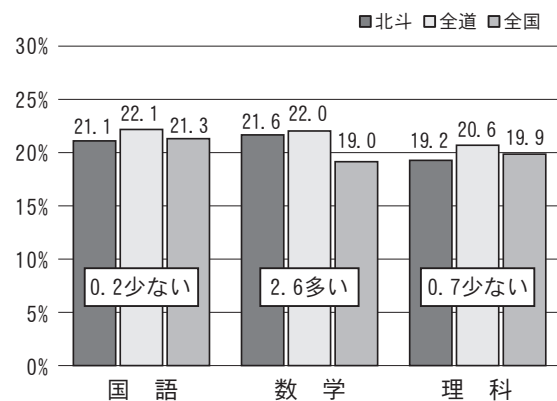
3年生 376人

	国語	数学	理科	合計
北斗市	71	48	47	166
北海道	69	49	49	167
全国	69.0	51.4	49.3	169.7
道との差	+2	-1	-2	-1
全国との差	+2.0	-3.4	-2.3	-3.7

※北斗市・北海道の各教科の平均正答率は国が公表した整数値です。

○全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合は、中学校で

### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合

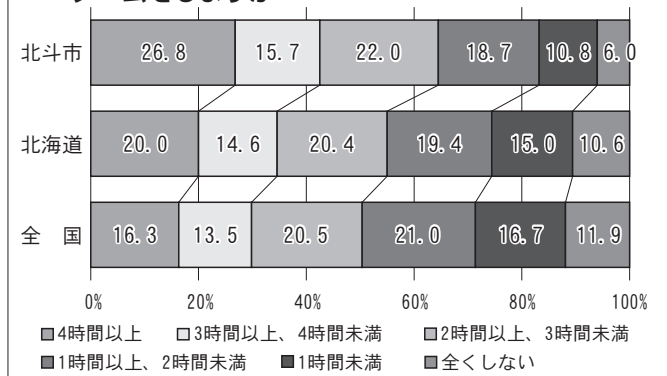


は、数学で2・6ポイント多くなったものの、国語で0・2ポイント、理科で0・7ポイント、少なくなりました。

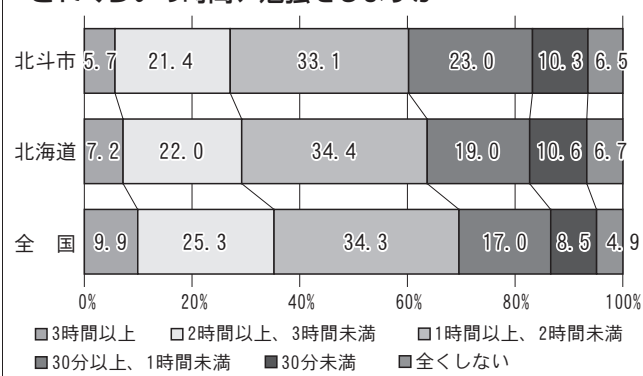
### 2 生徒への質問紙調査

○平日、1時間以上ゲームをしている生徒の割合は83・2%で全国（71・3%）を11・9ポイント上回りました。全国が昨年（80・0%）より大きく減少しましたが、北斗市は昨年の89・1%よりは減ったものの減少幅が小さく、差が広がりました。また、学校の授業以外に1日当たり1時間以上勉強している生徒の割合は、60・2%で全国（69・5%）を9・3ポイント下回りました。学習時間に関しては全国も昨年（75・9%）より減少しましたが、北斗市は昨年（69・0%）より減少幅が大きく、差が広がりました。引き続き、日常の

### 普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか



### 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



### 主な質問における回答

以下の質問に「当てはまる」と回答した割合(%)	北斗市	北海道	全国
自分にはよいところがあると思いますか	43.4	36.2	36.0
*先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	55.6	40.8	39.9
将来の夢や目標を持っていますか	39.0	39.9	39.8
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	92.4	84.0	82.6
学校に行くのは楽しいと思いますか	41.5	41.7	45.8

○生活時間の使い方の改善が望まれます。  
○「自分には、よいところがあると思えますか」という質問に、「当てはまる」と回答した割合は、全国・北海道を大きく上回っています。昨年度も同様に大きく上回っていました。今年度のみの左表\*の質問で、「当てはまる」生徒の割合が、大幅に上回っていることも一因と考えられます。  
○「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に、「持っている」と回答した割合は、ほぼ全国・全道と同様です。  
○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という

質問に、北斗市の中学生は、毎年、全国・北海道を上回る割合で、「いいないことだ」と答えています。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に、「当てはまる」と回答した割合は、全国・北海道を下回っています。しかし、昨年（39・6%）より、改善がみられます。

### 3 学力向上の取組

中学校3校（A～C）の平均正答率（%）

	国語	数学	理科	合計
A	68	47	44	159
B	71	46	49	166
C	75	55	50	180

※各校の正答率は国が公表した整数値です。

○小学校同様、中学校でも明らかにった課題を解決するため、結果を分析し、改善に取り組んでいます。

### 【課題解決・改善の取組】

①わかりやすい授業のために

◆生徒による授業評価（アンケート）の実施

◆ICT機器やデジタル教科書を効果的に活用した授業づくり

◆習熟度別授業の実施

◆実験や観察などを積極的に行う取組

◆授業の始まりで目標を提示し、終わりでまとめや振り返りを実施

◆授業改善チェックシートの活用

◆独自の意識調査アンケートを実施し、生徒の学習や生活に対する意識調査により、授業改善に反映

◆全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた「授業アイデア例」の活用

②生徒の学習意欲向上のために

◆学習内容と日常生活を関連付けた指導の推進

◆家庭学習の計画をサポートする手立ての実施

◆全員が達成感をもてるような問題の実施

◆授業につながる課題を出し、家庭学習習慣の定着の取組

◆考えた過程を「説明する」「解釈する」ことに着目できる授業づくりの推進

◆基礎的な学力を底上げするためのサポート学習の実施

◆解答を説明する活動や、考え方を記述する活動の実施

③その他の取組

◆各種検査・チャレンジテストの実施と結果交流

◆調査問題の振り返り、解き直しの実施

◆条件作文の取組

◆授業の最初に小テストを実施

◆生活リズムチェックシートの活用

◆部活動における学習会の実施（会議のための部活動待機の時間など）

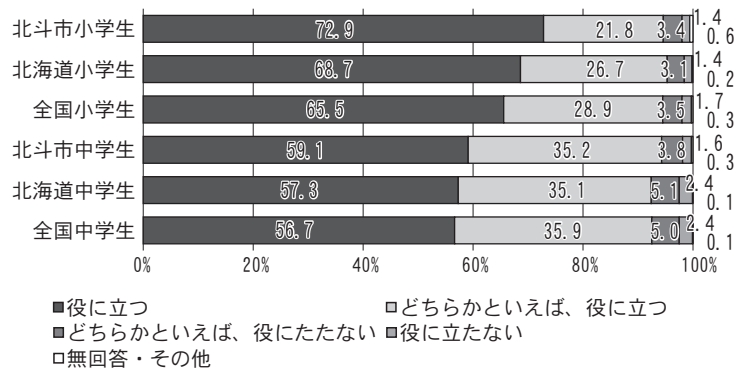
### 1人1台端末について

○今年度は、1人に1台整備されたICT端末に関する質問が重点的に設定されました。

○北斗市の小中学生は、全国・北海道よりも、ICT機器が学習に役立つと考えています。

○各学校では、効果的な活用に向けて、研究・研修に取り組んでいます。

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



### 子どもたちの健やかな成長のために

○昨年の調査で、北斗市の子どもたちは、「ゲーム等の時間が長く、家庭学習の

時間が短い」といった課題が浮き彫りになりました。今年度は、小学生の家庭学習に改善傾向が見られましたが、他はまだ課題が解決されたとは言えません。引き続き、一日の過ごし方、時間の使い方の見直しが必要です。

○しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思いませんか」という質問に対しては、毎年、「当てはまる」と答える児童生徒の割合が、全国・全道を上回っています。また、小学生の質問紙では、「将来の夢や目標を持っている」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」などで、全国・北海道を上回り、中学生の質問紙では、「自分にはよいところがある」「友達と協力するのは楽しい」などで、全国・全道を上回っています。他にも、昨年に比べ、肯定的な回答が確実に増えていますが、さらに、ICT機器の活用についても、意欲的と言えます。

○このように、北斗市の子どもたちには、よいところがたくさんあります。そして、何より新型コロナウイルス感染症の勢いも収まらず、いろいろな制約のある中、子どもたちは前向きにがんばっています。

○各ご家庭、市民の皆さまにおかれましては、そんな子どもたちをやさしく見守り、温かい励ましをしていただきませうようお願いいたします。

（教育委員会 指導室）

# 保護者と共に よりよい教育活動をめざして

浜分小学校

## 第26回 わくわくPTAまつり

10月22日(土)に、PTAまつりが3年ぶりに開催されました。コロナが流行している中でしたが、感染対策をしっかりと行いながら、子どもたちのために工夫してできることはないかを考え、準備を進めました。

例年であれば、子どもと保護者が一緒に参加できるイベントでしたが、今回は子どもたちのみで、2学年ずつ3部制に時間を分けて行いました。

1階の各教室では、「くじ」「スライ



ムづくり」「バルーンアート」「ヨーヨー釣り」「プラ板づくり」の中から自分の希望するコーナーで思い切り楽しむ様子が見られました。

体育館では、道南で活躍する人気のマジシャン高野太吾さんによる「マジックショー」が行われました。次々に披露される不思議で驚きの体験に子どもたちも大喜びで、歓声と拍手に包まれました。子どもたちにとって笑顔いっぱい楽しい一日となりました。

## 朝の読み聞かせ会

PTA活動に「朝の読み聞かせ会」があります。



コロナ禍で、対面での活動が難しくなりました。しかし、子どもたちとふれ合う機会を大切にしたいという保護者の声もあり、昨年度からオンライン「Zoom」を使用した読み聞かせを行っています。読み手側には子どもたちの反応がわかりづらい面もあるのですが、聞き手側には音量や画面いっぱいでの挿絵などがとてもわかりやすく、子どもたちに好評です。画面にくぎ付けになって、絵本の世界を楽しむ姿が見られます。



絵本の世界に引き込まれる子どもたち

## 環境整備作業

7月9日(土)に「環境整備作業」が行われました。これもPTA活動の一つで、年に2回行っています。

今年度は、「花壇とプランターへの苗植え・草取り」「校舎内のペンキ塗り」「体育館の明かり取りの清掃」を行いました。休日にもかかわらず、保護者・子ども・教員の総勢106名が集まりました。当日は気温も高い中、汗をかきながら、「学校をきれいにしたい!」という思いで、子どもたちも一緒に活動しました。校舎内外も見違えるようにきれいになり、子どもたちも喜んでいました。

日頃手の届かないところの清掃や修繕などサポートをしてくださるこの活動は、大変助かっています。子どもたちが気持ちよく学校生活を送れるように続けていきたいと思えます。

(浜分小学校教諭 長谷川 理美・廣瀬 葉子)



玄関の周りを華やかに

# 小さな学校の 大きくなつながら

～石別中学校で育まれる 心のあたたかさ～

## 三者合同石別ふれあい文化祭

10月22日(土)に「三者合同石別ふれあい文化祭」が、石別小学校の体育館を会場に開催されました。コロナ禍での文化祭も3年目を迎え、感染症対策に配慮しながら3年ぶりに小・中両校が一堂に会しての開催となりました。

文化祭のオープニングを飾ったのは、中学生による和太鼓の演奏で、曲は中学生の創作でした。音楽の授業の中で生徒一人一人が考えたりズムを基に、3年生が話し合いを重ねて曲に仕上げていきました。曲目の「千紫万紅<sup>せんしばんこう</sup>」も、3年生がつけたものでした。(千紫万紅……色とりどりの花が咲き乱れている様子。色鮮やかさま。紫や紅などのいろいろな花という意味)



心と音をひとつに太鼓を打つ

1・2年生と3年生の各学級の

発表では、社会見学・職業体験学習・修学旅行等で学んだことを、

各自が観客にわかりやすく楽しんでもらえるよう工夫を凝らしました。なぞなぞやクイズ、演技などが盛り込まれ、会場は大いに盛り上がりました。

エンディングでは、小中全校児童生徒での太鼓演奏で、会場に感動を演出しましたが、全員が高い集中力で見事な演奏を披露しました。

「Keep Smiling 輝け石中！」のテーマのとおり、色とりどりの花が咲き乱れるように、一人一人が輝いた文化祭で、あらためて子どもたちの無限の可能性を感じることができました。



小中合同太鼓演奏

## 茂辺地中学校との遠隔合同授業

11月8日(火)に、本校では初めての試みとなる「遠隔合同授業」を実施しました。

これまでもオンライン「Zoom」を活用した遠隔参加での行事や交流は行ったことはありましたが、通常授業の中での実践ははじめてのことでした。

中学2年生の国語科の授業で「短歌の味わい」という単元があり、実際に短歌を創作するという学習活動があります。

短歌は創作して終わるものでももちろんなく、誰かに読んでもらうこと、誰かの作品を読むことにつながっていくものです。

しかし、人数が少ない学校においては、読んでももらうことも少なくなりがちで、自分以外の同級生の短歌に触れる機会も限られます。

そこで、石別中学校2年生と茂辺地中学校2年生とがグループウェア「Microsoft Teams」を活用し、オンライン上でそれぞれの短歌を披露したり、

解釈をしあったりする授業



遠隔合同授業の様子①

を行いました。

自分の

短歌を解

積される

という活

動に加え、

遠い場所

にいる相

手との交

流という

ことで生徒は緊張した様子でしたが、充実感もひとしおだったようです。

石別中学校では今後も、校区内のさまざまな施設と交流をしたり、授業を公開したりなど、地域とのつながりを大切にしていこう予定です。



遠隔合同授業の様子②

### ほかにもある石別中の取組

#### ☆ノーチャイム

生徒の自主性を育むことを目的として、終日チャイムは鳴りません。生徒は時計を見て、自分の判断で動いています。

#### ☆特認校

個別最適な学びの実現を目指し、求めに応じて校区外の生徒を受け入れています。該当の生徒はいさりび鉄道に乗って、毎日通学しています。

(石別中学校教諭 渡部 知也)

# 食歴をひろげて人生を豊かに！

## 学校給食を活用した食育の推進 上磯小学校

### 子どもたちがさまざまな食の経験を！

学校給食は、栄養のバランスはもちろん、地場産物や郷土料理、食べ物の旬や生産者の思いなど、食に関するさまざまなことを学ぶ場です。実は、学級活動と同じ「特別活動」の時間です。

学校給食は、食育の「生きた教材」といわれます。ですから、学校給食で、子どもたちにさまざまな食品や料理の「味」を経験させたい。それが食歴を豊かにし、食歴の豊かさが人生の豊かさにつながっていくと考えています。

### 天然のうま味と素材のおいしさ…

北斗市には、魅力的な地場産物がたくさんあります。学校給食でも今年度新たに、生のトマト、かぼちゃ、しいたけ、春菊などの北斗市産食材を使い出しました。また、化学調味料を使わず、天然の出汁や素材の味を大切にした給食を提供していくと、本格的に取り組みを始めた。

みそ汁は昆布と煮干し、すまし汁やしょうゆ汁は、昆布とけずり節でしっかりと出汁を取り、出汁のうま味を味わえるよう工夫しています。

サラダの野菜は衛生面で加熱する必要がありますが、今までゆでていた野菜を蒸すことで、野菜本来のおいしさや歯ざわりを味わえるようにしました。味付け

も、市販のドレッシングではなく、オリーブ油、塩・こしょうなどでシンプルに味付け、素材のうま味を味わえるようにしています。

また、季節感を味わわせるために、旬の果物を積極的に取り入れています。これまでに、メロン、すいか、梨、巨峰、プルーン、りんごを提供し、食べられなかった果物が食べられるようになったなど、子どもたちからも好評を得ています。

### 給食ボードで興味関心を高める

上磯小学校では、今年度、「給食ボード」を購入し、玄関ホールに設置しました。日々の給食メニューや使用する食材、栄養価等を掲示しています。食材には、産地や生産者の紹介の吹き出しをつけ、献立に関するPRなどを盛り込み、子どもたちが学校給食や北斗市の地場産物、行事食などへの興味関心を高めることをねらいとしています。

主として、主に給食が終わった後、昼休みの時間に翌日のメニューへ貼り替えを行う



給食ボードに興味津々。明日の給食なにかかな？

ており、多くの子どもたちが興味を示して集まっています。子どもたちが明日の給食への期待を高め、登校する楽しみのひとつとなっていることを垣間見ることができます。

### 1年生の食育「給食のひみつを知ろう」

栄養教諭が学級で授業を行うことができる時間には限りがあり、上磯小学校の食育授業は、各学級、年1時間程度です。その限られた時間が、子どもたちの記憶に残り、行動変容につながるよう、さまざまな工夫をしています。1年生で行った「給食のひみつを知ろう」では、給食センターで実際に使っているザルやヘラを見て触れさせ、調理員さんの苦労を実感できるようにしました。また、食べたことのない食品や料理は、それらを知ってほしいという栄養教諭の願いが込められていることを伝えたり、苦手なものも、自分の成長や健康のために必要があり、給食として提供されていることを学ぶ機会としました。授業後は、子どもたちが食べたことのない料理に挑戦したことや、苦手な食品が食べられたことを報告してくれ、うれしいうれしい姿が見られました。



1年生食育授業の様子

### お昼の校内放送「給食のおはなし」

上磯小学校は、普通学級と特別支援学級を合わせて18学級あります。栄養教諭が各学級に給食指導に行くためには約1か月かかります。その日の給食のPRをタイムリーに行うために、校内放送を活用しています。今年度は、七夕や十五夜などの行事食、新たに使用を始めた地場産物や旬の果物、新メニューなどを提供するときに、校内放送で全校児童に一斉指導を行い、行事食や地場産物を味わうことの大切さを直接伝える機会としています。今では、「伊藤先生、次の給食のお話いつやるの？」と期待を示してくれる子どもおり、定期的な放送も検討し、子どもたちの食への意欲を高めたていきたいと考えています。

### 食べる力と食欲！

現代の子どもは、食べることにあまり興味を持たない子が少なくありません。食べたい時に、食べたい物を、食べたいだけ食べられる生活の中で育ち、食に対する食欲な姿勢が育つ機会が少なかったのかもしれない。でも、食は生きることで、食欲が希薄なのは生きる意欲が希薄のように思え、子どもたちにも、もっと食べることに食欲になってほしい、食べることを楽しさを味わってほしいと願っています。これからは、学校給食や食に関する指導を通して、子どもたちの食歴をひろげ、人生が豊かになるように、努力していきたいと思えます。

(上磯小学校 栄養教諭 伊藤 綾子)



## 北斗市外国語プロジェクトの取組

北斗市では、次代を担う子どもたちに必要な資質・能力の育成を目指して、全ての小中学校と教育委員会が一丸となって取り組んでいます。

特に、「学力向上・地域連携・外国語・ICT」については、北斗市校長会と教頭会が連携してプロジェクトチームを組織し、推進しています。

そのうちの一つである北斗市外国語プロジェクトチームでは、急速に進展しているグローバル化に対応できるよう、子どもたちの英語によるコミュニケーション能力の向上に向けて、北斗市内の小中学校における外国語・外国語活動の充実を図る取組を推進しています。

また、北斗市教育委員会では、英語の授業や英語活動がより実践的で効果的に見えるよう、4名のALT（外国語指導助手）を各小中学校に派遣しており、本プロジェクトとも協力して活動しています。本プロジェクトの具体的な取組や今後行う活動を一部紹介します。

【北斗市の小中9年間のCAN-DORリストの作成】

CAN-DORリストとは、児童生徒が英語でできることをリスト化したものです。各校で作成の際に参考にしてもらえよう、本プロジェクトでスタンダードなものを作成しました。

【外国語・外国語活動における年間計画や教材等の参考資料の作成】

現在、小学校3年生から外国語活動、5年生から教科としての英語が行われていますが、北斗市では、小学校1・2年生で「英語との出会い」を意識し、遊びや歌などを通して身近な英語の音声に慣れ親しむ活動を取り入れています。

そこで、小学校低学年から6年生までの年間計画や参考となる資料を作成しています。

【各校の実践紹介】

自校の授業や活動の改善に参考となるよう、各校の実践を紹介します。

【ALTとの連携】

各校でのALTの活用についての情報や参考資料の作成、また、ALTと先生方の交流の場を設定し、協力体制の強化を図ります。

【英検検定料補助制度の周知】

北斗市では、令和2年度より財団法人日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定の検定料の一部を補助しています（詳しくは北斗市HPへ）。本プロジェクトでも児童生徒にチラシを配布しました。今後も北斗市の児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上に努めてまいります。

（北斗市校長会外国語プロジェクト

茂辺地小中学校長 星野 みさお）

## 冬の感染症

強力な感染で猛威を振るう

### インフルエンザ

突然の38度以上の発熱、頭痛、咳や鼻水、下痢、倦怠感などつらい症状が出ます。感染力が強いため、熱が下がっても注意が必要です。飛沫感染、接触感染で起こります。



《対応その1》

ウイルスを室内に増やさないためにも適切な換気が必要です。濡れタオルや加湿器で室内の乾燥対策も行いましょう。

《対応その2》

流行時期は人混みを避けるようにしましょう。

下痢や嘔吐を繰り返す

### ウイルス性胃腸炎

冬に子どもの間で流行するものは、主にノロウイルスやロタウイルスによるものです。突然吐いたり、下痢をしたりすることから始まります。他に発熱、悪心、腹痛などの症状が見られます。接触感染、経口感染（汚染された食品を食べることによる感染）で起こります。



《対応その1》

症状に応じた対症療法を行います。脱水症にならないように、経口補水液などの水分を少量ずつこまめに飲みましょう。

《対応その2》

嘔吐物や下痢便にはウイルスが含まれています。嘔吐物は速やかに処分しましょう。

嘔吐物が付いた食器や衣類は塩素系漂白剤で消毒します。

処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。



菌が肺に感染して起こる

### マイコプラズマ肺炎

飛沫感染、接触感染で広がります。しつこい咳、発熱、倦怠感、頭痛などが症状です。耳の痛みやゼーゼー、ヒューヒューと呼吸音が聞こえることもあります。

《対応その1》

水分を摂取すること

で喉が潤い、咳を抑えることができます。

《対応その2》

部屋の湿度を保ち、症状が治まるまで静かに過ごしましょう。



（北斗市学校保健会 茂辺地小学校

養護教諭 秋野 真由美）

# サロンの活動の充実と ユニークなサーキットの輪を広げて!!!

NPO法人 北斗スポーツクラブ

少子高齢化が進む中で、人々の健康に対する意識がますます高まってきています。新型コロナウイルスの感染リスクを抱えながらも、体を動かす機会を求めて各地域で盛り上がりがあります。北斗市では市民の皆さんが生涯を通して明るく健康に過ごしていただくことを目的に社会教育の中で各種体育事業を推進しています。その中の一つとして、北斗スポーツクラブが高齢者を対象とした「身体にやさしい運動」をスポーツクラブスタッフが講師として出向き指導にあたっています。高齢者の方々が、心身共に健康で文化的な生活を営むことができるように、基礎体力の向上と心身の健康維持・推進を目指し、活気のある日常生活を送ってほしいと願い指導にあたっているところです。

## ◎活発なサロン活動

北斗市には、現在市内に21団体の高齢者が集うサロンがあります。このサロン活動は、地域の皆さんが自主的に運営し、公共施設や集会所を利用して気軽に仲間と集い、楽しみながら過ごすことができる「憩いの場」になっています。

## ◎北斗スポーツクラブとしての指導

北斗市の高齢者大学の講座を担当したスポーツクラブスタッフが指導にあたることがきっかけとなり、北斗市本町の「サロン楽活の会」より指導依頼を受け、



みんなで元気にラジオ体操

その中では、指導資格を持った方が中心となり「ふまねっと運動」「カーリンコン」「レクリエーションボッチャ」などを楽しんでいます。北斗スポーツクラブでは、ラジオ体操をはじめストレッチ体操・軽体操など、誰でも気軽に組みめる活動を中心に指導にあたっています。また、体を動かすことが苦手な方は、茶話会などで自由に会話を楽しみコミュニケーションを深め、交流の場を広げています。このように積極的に集う場があることは、健康な心身の増進につながり、基礎体力の向上にも結び付く大切な場になっています。

北斗市の高齢者大学の講座を担当したスポーツクラブスタッフが指導にあたることがきっかけとなり、北斗市本町の「サロン楽活の会」より指導依頼を受け、

## ◎今後も充実した活動に

北斗市の高齢者サロン活動は、それぞれの会が自主的に運営され「大切な憩いの場」となっています。各サークルが工夫されて楽しい場として、ユニークなサーキットを深める活動をしています。また、



ゴムチューブを使ってストレッチ

現在、約30名の会員がおり、会員たちは誘い合ってサロンに参加し、親睦を深めており、新しい会員も増えてきています。身体に負担が掛かり過ぎないように指導も工夫されており、椅子に座ってのストレッチ、ボールやバトンを使用しての脳トレーニングなど、誰もが気軽に楽しながら運動ができる取り組みを行っています。

北斗市の高齢者サロン活動は、それぞれの会が自主的に運営され「大切な憩いの場」となっています。各サークルが工夫されて楽しい場として、ユニークなサーキットを深める活動をしています。また、

それに参加されている皆さんは、意欲的で基礎体力の向上にもつながり、負担をかけず気軽に身体を動かすことができる活動も好評の一つとなっています。心身共に健康でいられること、体力増進に結び付くこと、そして、気分転換になりストレス解消になることでも喜ばれています。



ラジオ体操コンクールに初めて参加

今年のラジオ体操コンクールでは初めて一般の部に「サロン楽活の会」の皆さんが参加しました。皆さんが積極的に参加し、挑戦されたことは、大変すばらしいことです。周囲からも大きな声援と拍手があり、みごと「審査委員特別賞」を受賞し、大会を大いに盛り上げてくれました。

北斗スポーツクラブでは、無理なく身体を動かす簡単な誰でも興味を持てる運動やストレッチを取り入れていきます。遊びの要素を取り入れたバルシューレなども、今後取り入れたら楽しめるのではないかと考えています。今後も各地域のサロン活動の充実に関わり、活動の場が広がっていくことを期待しています。  
(北斗市スポーツ推進委員会 委員長 安達 孝義)

ほくと遺跡ものがたり  
〜遺跡が語る北斗の歴史〜  
-番外編-

はるかむかし、旧石器時代・縄文時代から現代に至るまで、一万有余年の間にこの北斗の地で営まれ続けた人類の歩み―当「コーナ」では、こうした北斗の歴史について、「遺跡」に焦点をあてて紹介します。今回は番外編、シヨートコラムです。

現在の北斗市地域では約300年前まで和人とアイヌの人々が共に交じり合ってきたりしており、その名残であるアイヌ語由来の地名が今ものこっていることは当コラムで紹介してきたとおりです。

そこで、今回はその一部について抜粋し、少し詳しく紹介したいと思います。

・七重浜：nuwanhayヌウエアン・ナイ

〔意味〕獲物がたくさんとれる・沢

【古例】『松前西東在郷並蝦夷地所附』(享保12年・1727)「な、え浜」

【江戸時代別表記】七重のはま、七重乃浜、ナ、イ浜、七内濱(なないはま)

※かつて七重浜を河口とした石川は、上流の山裾(現在の七飯町中心付近、当時の七重村)とつながっていました。また、松浦武四郎『蝦夷日誌』には「七重濱は七重村の出郷なれば也」とあり、当時の川辺の豊かな恵みとそれがつないだ人の営みを感じさせる地名といえるでしょう。

〔意味〕黒い(濁った)・川

【古例】『松前蝦夷記』(享保2年・1717)くんね別

【江戸時代別表記】くねべつ、くねべ川、クンベツ、ク子ベツ

※現在の北斗市平野部、特に久根別川と大野川の間は上流から堆積した黒色土壌であるため、そこを通る川は濁り、川底は黒く見えたのでしよう。

・有川：(ウ)anuspetアル・ウシユ・ペツ

【古例】『津軽一統志』(寛文10年・1669)あるう川

【江戸時代別表記】あるか、ある川、有川、アリカワ ※ある川・あり川のブレは18世紀末におこり、のちあり川優勢に。

※かつて久根別川と大野川は下流で合流し、そこから河口までを有川と呼びました。つまり当時の有川の本流は現在の大野川を指すのですが、当時は細かく蛇行しており、河岸には収穫に適した植物(BC)が繁茂(はんも)していたのでしよう。それをあらわした地名であるといえます。

・戸切地：dekerpetペケレ・ペツ

【意味】澄んだ(透明な)・川

【古例】『松前蝦夷図』(寛文8年・1667)へケレケレチ

【江戸時代別表記】へきれち、へけれち、辺げれち、辺化札地、辺幾利知、戸切知

※クネベツ(黒い川)とある種対比となる地名です。実際、河床礫も多く、河水は比較的澄んでいるのが特徴です。この川の上流に現在位置しているのが北斗市の水がめの一つ、上磯ダムです。

・茂辺地：①mu-pet ヴー・ペツ②mo-deciモ・ペシ

【意味】①塞がる・川②静かなその川

【古例】『えぞの絵図』(寛文8年・1667)モヘチ

【江戸時代別表記】茂戸地・モンベツ ※時化などの時に河口が塞がるので

「mu-pet」と静かに流れる姿から「mo-deci」と両方の説が江戸時代から存在します。後者の場合は道北の紋別や日高の門別と同じ語源ということになります。

・当別：①To-pet-ユー・ペシ②To-unpet トー・ウン・ペツ

【意味】①沼・川②沼・ある・川

【古例】『松前蝦夷図』(寛文8年・1667)トウヘチ

【江戸時代別表記】トウヘツ・トウベツ・トツフヘツ・トラウンヘツ

※当別川の上流にかけて沼が存在していたことからついた地名です。なおその沼は江戸末期の頃にはすでに埋もれてしまっていたとのこと(『蝦夷日誌』)。

今は知り得ない土地の歴史を知ることができるとも地名を調べる楽しみの一つです。

ここまで、北斗市内にのこるアイヌ語地名を紹介してきましたが、今度は逆にアイヌ語ではない地名を紹介しましょう。

・大野

『大野町史』などで「onne(大) + nup(野)」を語源説の一つに挙げていますが、「onne」(老いた)をこの形で「大きい」として使うことはなく、「大きな野原」を表現する場合は「sep-nup(広い・野原)」あるいは川沿いの地形条件であれば「si-nutap(大きな・平原)」となります。

「大野」地名は『津軽一統志』(寛文10年・1669)より一貫して漢字表記であり、和語由来と見るのが自然でしょう。

・上磯

「[kamyu-so(神のor巨大な・滝)]」

「[kama-iso(平たい山石)]」などの巷説が散見されますが、いずれも明治時代以降に音だけで当てはめられたものです。

そもそも、地名としての上磯は明治2年(1869)に松浦武四郎が郡名として提議するまで存在せず、江戸時代に用いられた記録はありません。

明治という新しい時代とともに生まれた地名である、と考えるよいでしょう。

このように、地名を調べると、各土地ごとの歴史や特性を知ることができます。皆さんもぜひチャレンジしてみてください。

(郷土資料館 時田 太郎)

## 第1回北斗市二十歳を祝う会

日時／1月8日(日)

- ・受付時間 午前11時から正午  
※分散入場のため、正午までにご来場ください。
- ・式典開始 午後1時

会場／総合文化センター かなで～る

対象者／平成14年4月2日から

平成15年4月1日までに生まれた方

●今年度は大ホールで、保護者の観覧が可能となります。

問い合わせ／教育委員会社会教育課



隠れている楽器は、ありますか？

## 音楽体験 「TOUCH & TRY」 in ほくと

令和5年1月22日(日) in かなで～る  
13:20～15:30 13:00～13:20 ミニコンサート

\*お申込みはインターネットから事前にお申込みください。



## 第8回スノーフェスティバル

# 冬の大運動会

19月祝

受付 午前9時30分  
開会式・競技開始 午前10時から  
場所 運動公園自由広場

対象  
市内在住または市内在勤者。  
※幼児は保護者同伴のこと

申込方法  
総合体育館へお電話で。

各競技別に上位者には  
賞品を用意しています！  
参加者全員に参加賞を  
お渡しします。

寒さに負けず元気よく運動しよう！

### 競技種目

- ・スノーフラッグ
- ・おしり相撲大会
- ・雪中綱引き
- ・そりリレー など

参加料  
無料

当日、豚汁を提供いたします

### 注意事項

- 天候や会場の変動状況、また新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、時間短縮・種目の変更・開催中止となる場合がございます。
- 中止の場合は、北斗スポーツクラブホームページに掲載、またはお電話にてご連絡いたします。
- 持ち物：防寒靴・帽子・手袋・スキウエア、マスクを各自準備してください。
- 当日の写真や動画を、広報等で利用する場合がございますので予めご了承ください。

### 申し込み・問い合わせ先

12月28日(水)午後5時までに総合体育館まで

電話番号 73-6481

主催/北斗スポーツクラブ

後援/北斗市教育委員会

## 令和4年度教育広報編集委員会

- ◎発行責任者 北斗市教育委員会 教育長 永田 裕
- ◎編集長 北斗市校長会 校長 加藤 良明 (沖川小学校)
- ◎編集委員 北斗市教頭会 教頭 助川 剛 (大野中学校)
- 北斗市内教職員 教諭 早坂 純一 (萩野小学校)
- 教諭 吉田 真知子 (上磯小学校)
- 教諭 廣瀬 葉子 (浜分小学校)
- 教諭 渡部 知也 (石別中学校)
- 教諭 山崎 蓮太 (浜分中学校)
- 教頭 小野寺 利江 (七瀬養護学校がしほ学園分校)
- 北斗市学校保健会 養護教諭 丹羽 七海 (石別小学校)
- 北斗市スポーツ推進委員会 委員長 安達 孝義
- 北斗市文化団体協議会 事務局長 小野 育子
- ◎事務局 北斗市教育委員会社会教育課

## きらめき大学・浜分ふれあい大学 せせらぎ大学

新入生  
募集

- きらめき大学  
金曜日：午後1時から午後3時  
総合文化センター かなで～る
  - 浜分ふれあい大学  
水曜日：午前9時30分から午前11時30分  
浜分ふれあいセンター
  - せせらぎ大学  
火曜日：午前9時40分から午前11時40分  
北斗市公民館
- 対象／満60歳以上の市民  
開設／4月～11月  
費用／それぞれの大学ごとに異なります。  
申込み／総合文化センターかなで～る、北斗市公民館、各支所に設置されている申込用紙で申し込みください。  
問い合わせ／教育委員会社会教育課  
Tel74-2000

## イングリッシュキャンプinかなで～る

- 日時／2月11日(土)  
会場／総合文化センター かなで～る  
対象／市内在住の小学3～6年生  
定員／30名  
問い合わせ／教育委員会社会教育課  
※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。